

流通店舗での離乳に関する育児相談の現状

山本 直子¹・赤星 衣美²・新川 哲子³・大石 和代¹

要旨 流通店舗内における3年間の育児相談の中から、離乳相談に焦点をあて、現状調査を行った。相談子ども数は130人で、152件の相談があった。また相談者はすべて母親であった。月齢別では2か月から17か月までの相談があった。相談内容では「与え方・進め方」の相談が31.6%と最多であり、月齢別では6か月から8か月の相談が38.5%と最多であった。「果汁の開始時期と飲み方」「離乳の開始時期」の相談では3年間で相談数に変化が見られた。「授乳・離乳支援ガイド」(厚生労働省)の変更があったことが影響している可能性が示唆された。

保健学研究 23(2): 23-28, 2011

Key Words : 離乳, 離乳の開始, 離乳の完了

(2011年4月3日受付)
(2011年7月6日受理)

I. 緒言

子育て支援はさまざまな立場からの多面的なものではないが、その中で子どもの食事・栄養は最も重要なものの一つである。特に生後1～2年の食事・栄養、すなわち授乳・離乳について十分な支援が求められる¹⁾。

離乳食の開始・進行については、1995年に旧厚生労働省が発表した「改定 離乳の基本」に基づき、保健・栄養指導の場面や育児雑誌等において幅広く情報提供が行われてきた²⁾。この「改定 離乳の基本」が出された後、親子を取り巻く社会環境、食環境の変化はさらに加速しており、現状に合わせた離乳の支援が求められている²⁾。厚生労働省は乳幼児の栄養方法および食事の状況等の実態を把握し、母乳育児の推進や乳幼児の食生活の改善のための基礎資料とするため乳幼児栄養調査を10年ごとに実施している。調査結果等³⁾や最新の知見を踏まえて「改定離乳の基本」を見直し、2007年3月「授乳・離乳

支援ガイド」が発表された²⁾(主な変更点を表1に示す)。

我々は、「授乳・離乳支援ガイド」の発表前年から流通店舗内で育児相談を開始した。子育て支援に関する過去の報告においても授乳・離乳に関する相談は多い^{4,5)}が、流通店舗での育児相談や離乳に関する相談の詳細を明らかにした報告は少ない。流通店舗では様々な月齢の子どもの相談に応じるため、月齢別離乳相談数や相談内容の違いなど全体が把握できると考えられる。そこで流通店舗内での育児相談の中から離乳に関する育児相談に焦点をあて現状調査を行った。

II. 研究方法

1. 対象

流通店舗A内で実施している「助産師による無料育児相談」を訪れた相談者のうち、2006年4月～2009年3月(開催回数計36回)の相談記録を分析した。

表1. 授乳・離乳支援ガイド発表による主な変更点

項目	変更前	変更後
離乳の開始時期	およそ生後5か月	生後5, 6か月頃
果汁	離乳の準備として勧める	不必要
さじ慣らし	離乳の準備として勧める	不要
離乳の完了時期	生後13か月を中心とした12-15か月頃、遅くとも18か月頃	生後12-18か月頃
離乳完了と母乳	母乳は自然にやめるようになる1歳以降は牛乳又はミルクをコップで与える	離乳完了時期に合わせて授乳終了する必要なし

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座

2 長崎大学病院

3 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科放射線疫学分野

2. データ収集及び分類方法

育児相談従事者が相談後に作成した相談記録の3年分の既存データの中から、離乳に関する相談（以下離乳相談と略す）のみを抽出した。次に離乳相談内容を、相談内容の意味の分析を行った。

3. 用語の定義

離乳とは、母乳または育児用ミルク等の乳汁栄養から幼児食に移行する過程をいう。

離乳の開始とは、なめらかにすりつぶした状態の食物を初めて与えた時をいう。

離乳の完了とは、形のある食物をかみつぶすことができるようになり、エネルギーや栄養素の大部分が母乳または育児用ミルク以外の食物からとれるようになった状態をいう。

4. 倫理的配慮

既存データは連結不可能匿名化法を用いているため、相談者を特定することは出来ない。

Ⅲ. 助産師による無料育児相談の概要

2006年4月にA店舗内マタニティ・ベビー服売り場授乳室近くの、オープンスペースに開設し、妊娠・出産・育児に関する相談に無料で応じている。相談者の募集は店舗側が店舗内の広告、新聞折り込みちらし等で随時行っている。開催は1ヶ月に1回、毎月第3土曜日、13時30分から15時30分までの2時間である。予約不要で先着順に随時相談を受け付けている。育児相談従事者数は助産師3名、2008年度より理学療法士3名が加わり、6名で相談にあっている。1人あたりの相談時間は約5-10分である。A店舗はB市中心部の、複合商業施設で、大型駐車場を完備している。

Ⅳ. 相談の実際

まず子どもの性別と月齢を確認し、身長、体重計測する。相談従事者が測定値を元に子どもの発育が月齢に見合ったものかどうかを伝える。あわせてお座り、はいはいなど月齢に応じた発達の状況も確認する。その後相談者と子どもとの関係、同伴者の有無、同伴者がいれば子どもとの関係を問診し相談に答えていく。相談者の希望があれば理学療法士の相談コーナーへ誘導する。相談終了後、測定値をメモしたものを相談者に渡し母子健康手帳に記載するよう勧める。初回の相談者に対しては、助産師による無料育児相談の開催時期・時間・場所を伝え、気軽に利用するよう案内する。

Ⅴ. 結果

相談の対象となった子ども数（以下相談子ども数）を表2に示す。全体の相談子ども数に占める離乳相談子ども数は、2006年度27.6%、2007年度18.9%、2008年度20.0%

で、3年間では22.3%であった。また3年間の相談件数は820件で相談者1人当たり平均相談件数は1.4件であった。3年間の離乳相談件数は151件で相談者1人当たり平均相談件数は1.2件であった。相談者の内訳は、全体の相談では母親579人（99.0%）、父親5人（0.9%）、離乳相談では母親132人（100%）であった。また全体の相談では152人の母親（26.4%）、離乳相談では33人の母親（25%）が父親、祖母、友人等を同伴していた。

相談子ども数を月齢別に見ると、月齢1か月から3歳までの子どもの相談があった。3年間全体で月齢3-5か月の相談が174人（29.9%）と最多、次いで月齢6-8か月の相談が133人（22.9%）、9-11か月92人（15.8%）、2か月以下88人（15.1%）と続いた。相談子ども数の83.7%は月齢11か月までの乳児であった。

表2. 相談子ども数

子ども数	2006	2007	2008	3年間合計
全体の相談	217	185	179	581
離乳相談	60 (27.6)	35 (18.9)	35 (20.0)	130 (22.3)

人 (%)

月齢別離乳相談子ども数を表3に示す。3年間全体で月齢2か月以下の相談はほとんどなく、また月齢18か月以上の相談もなかった。月齢6-8か月の相談が最多、次いで月齢3-5か月、9-11か月、12-17か月であった。離乳相談子ども数の86.7%は月齢11か月までの乳児であった。年度別に見ると、月齢6-8か月、12-17か月の相談が増加し、月齢3-5か月、9-11か月の相談は減少した。

表3. 月齢別離乳相談子ども数

月齢	子ども数			
	2006 n=60	2007 n=35	2008 n=35	3年間合計 n=130
2か月以下	1 (1.7)	0	0	1 (0.8)
3-5か月	20 (33.3)	7 (20.0)	6 (16.2)	33 (25.4)
6-8か月	17 (28.3)	16 (45.7)	17 (45.9)	50 (38.5)
9-11か月	17 (28.3)	8 (22.9)	4 (10.8)	29 (22.3)
12-17か月	5 (8.3)	4 (11.4)	8 (21.6)	17 (13.1)
18か月以上	0	0	0	0

人 (%)

月齢別離乳相談内容を表4に示す。離乳相談内容を相談内容の意味の分析から11項目に分類した。相談数の多いものから順に、離乳食の与え方や進める目安に関する相談である「与え方・進め方」、「子どもの食欲」、子ども自身のアレルギー体質や疾患と離乳食摂取後の子どもの体調に関する相談である「アレルギー・疾患・体調」、

表4. 月齢別離乳相談内容

相談項目	相談件数 (%)					
	2か月以下 n=2	3-5か月 n=35	6-8か月 n=52	9-11か月 n=45	12-17か月 n=18	全体 n=152
与え方・進め方	0	13 (37.1)	20 (38.5)	14 (31.1)	1 (5.6)	48 (31.6)
子どもの食欲	0	2 (5.7)	5 (9.6)	9 (20.0)	6 (33.3)	22 (14.5)
アレルギー・疾患・体調	0	0	10 (19.2)	4 (8.9)	4 (22.2)	18 (11.8)
母乳やミルクとのバランス	0	2 (5.7)	2 (3.8)	5 (11.1)	2 (11.1)	11 (7.2)
おやつ・母乳やミルク以外の飲料	1 (50)	1 (2.9)	6 (11.5)	2 (4.4)	1 (5.6)	11 (7.2)
離乳完了と母乳	0	1 (2.9)	2 (3.8)	4 (8.9)	3 (16.7)	10 (6.6)
離乳の開始時期	0	6 (17.1)	3 (5.8)	0	0	9 (5.9)
果汁の開始時期や飲み方	0	6 (17.1)	3 (5.8)	0	0	9 (5.9)
食器の選び方	1 (50)	2 (5.7)	1 (1.9)	1 (2.2)	1 (5.6)	6 (3.9)
咀嚼・嚥下	0	0	0	4 (8.9)	0	4 (2.6)
食品・メニュー	0	0	2 (3.8)	2 (4.4)	0	4 (2.6)

件 (%)

離乳の進行に合わせて母乳やミルクの与え方に関する相談である「母乳やミルクとのバランス」, 「おやつ・母乳やミルク以外の飲料」, 離乳完了時期の母乳の与え方に関する相談である「離乳完了と母乳」, 「離乳の開始時期」, 「果汁の開始時期や飲み方」, 「食器の選び方」, 子どもの嚥下や咀嚼の反応に関する相談である「咀嚼・嚥下」, 「食品・メニュー」であった。

「与え方・進め方」の相談は月齢3-5か月, 6-8か月, 9-11か月に多かった。「子どもの食欲」は月齢が進むに従って相談が増加した。「アレルギー・疾患・体調」は月齢3-5か月までは相談がなく, 12-17か月, 次いで6-8か月に多かった。「離乳の開始時期」, 「果汁の開始時期や飲み方」は月齢3-5か月と月齢6-8

か月だけに相談があった。「離乳完了と母乳」は月齢が進むにしたがって漸増した。「離乳の開始時期」, 「果汁の開始時期や飲み方」の相談はどちらも月齢3-5か月と月齢6-8か月に相談があった。

年度別離乳相談内容を表5に示す。相談の多いものは2006年度では「与え方・進め方」, 次いで「子どもの食欲」, 2007年度では「与え方・進め方」, 次いで「アレルギー・疾患・体調」, 2008年度では「与え方・進め方」, 次いで「子どもの食欲」であった。「離乳の開始時期」の相談件数は2006年度0件, 2007年度3件, 2008年度6件, 3年間全体で9件であった。「果汁の開始時期や飲み方」の相談件数は2006年度6件, 2007年度3件, 2008年度0件であった。月齢別離乳相談内容に占める「離乳

表5. 年度別離乳相談内容

	2006年度 n=70	2007年度 n=45	2008年度 n=37	全体 n=152
与え方・進め方	24 (34.3)	12 (26.7)	12 (32.4)	48 (31.6)
子どもの食欲	14 (20.0)	2 (4.4)	6 (16.2)	22 (14.5)
アレルギー・疾患・体調	5 (7.1)	10 (22.2)	3 (8.1)	18 (11.8)
母乳やミルクとのバランス	4 (5.7)	4 (8.9)	3 (8.1)	11 (7.2)
おやつ・母乳やミルク以外の飲料	3 (4.3)	5 (11.1)	3 (8.1)	11 (7.2)
離乳完了と母乳	4 (5.7)	3 (6.7)	3 (8.1)	10 (6.6)
離乳の開始時期	0	3 (6.7)	6 (16.2)	9 (5.9)
果汁の開始時期や飲み方	6 (8.6)	3 (6.7)	0	9 (5.9)
食器の選び方	5 (7.1)	0	1 (2.7)	6 (3.9)
咀嚼・嚥下	3 (4.3)	1 (2.2)	0	4 (2.6)
食品・メニュー	2 (2.9)	2 (4.4)	0	4 (2.6)

件 (%)

の開始時期]、「果汁の開始時期や飲み方」の相談の割合はどちらも5.9%であった。

VI. 考察

先行研究の相談が16.0-57.0%⁶⁾という報告と同様に本調査における3年間の相談子ども数に占める離乳相談子ども数は22.3%であり、離乳相談は多かった。

年度別に見ると全体の相談子ども数、離乳相談子ども数ともに減少しているが、原因がはっきりしない。

相談者の内訳では、先行文献⁵⁾同様相談者の多くは母親であった。子どもに離乳食を作る、食べさせることを主に行っているのが母親だと考えられるため、母親が疑問を持ちやすいと考えられる。母親単独での相談が多かったが、流通店舗内でおこなわれた先行研究⁴⁾と同様我々の調査でも母親の4人に1人が同伴者とともに相談に来ていた。同伴者は母親にとって身近な人達であった。父親、祖母の同伴は乳幼児健診の場で珍しくないが、友人の同伴は過去の報告で見かけない。母親が友人と一緒に買い物ついでに気軽に育児相談が出来る場であることが考えられる。母親が1人で不安を抱え込まないためにも、同伴者がいる場合は同伴者も巻き込んで母親の相談に答えていくことも大切だと考えられる。

離乳相談内容は「離乳開始」等時期の相談、「与え方・進め方」等離乳食を与える方法の相談、「咀嚼・嚥下」「子どもの食欲」等子どもの反応の相談、「母乳やミルクのバランス」等離乳食と同時進行して与える栄養についての相談等先行研究⁴⁾と同様多岐に渡った。離乳食を準備し、与え、子どもの反応をみながら進めることは多くの母親にとって初めて、もしくは経験していても回数が少ないものと考えられる。また子どもには個性があり¹⁾、学習した通りに離乳を進めていこうとしても、予定通り進まないこともある。相談内容は多岐に渡ると思われる。「与え方・進め方」、「子どもの食欲」、「アレルギー・疾患・体調」の順に多く、先行研究⁴⁾と同様であり、離乳相談の約6割を占めた。相談の多い内容を把握し応える能力は必要である。それだけではなく相談数の少ない内容についても子どもの個性を踏まえた個別的な保健指導が出来る能力も必要である。

月齢別に相談子ども数と離乳相談子ども数を見た時、どちらも月齢11か月までの相談が多かった。特に離乳相談に関しては9割近くが月齢11ヶ月までの乳児の相談であった。離乳の開始時期は生後5-6か月頃、離乳の完了時期は生後12-18か月頃²⁾であるため離乳開始期間以前である月齢2ヶ月以下の相談はほとんどなかった可能性がある。加えて外出するには子どもがまだ小さいため流通店舗への来店が少ないことも考えられる。離乳開始する時期である月齢3-5か月より離乳相談が始め、離乳を完了するまでの相談が多い。月齢18か月以上の相談がなかったのは、離乳の完了時期にスムーズに離乳完了出来たため相談がなかった可能性がある。育児相談を

利用する母親の相談内容についての調査でも⁴⁾月齢18か月以上の相談が少ない。月齢18か月を過ぎると我々の育児相談の場を利用せず、ある程度子育てに関する不安を解決している又は他に相談場所を求めていることが考えられる。次の子どもを妊娠・出産している可能性のある時期でもある。月齢6-8か月は3年間全体で離乳相談最多の時期であった。この時期は離乳開始から間もない時期であり、子どもの様子を見ながら離乳を進めていく離乳初期の段階である。離乳開始間もない頃が1番悩む時期であると思われ、相談の多いこの時期の相談に応えていける保健指導能力が必要である。

厚生労働省が発表した2005年度乳幼児栄養調査の「離乳食で困ったことやわからないこと」³⁾に保護者は「離乳の進め方がわからない」や「開始の時期がわからない」と答えている。本調査でも「与え方・進め方」に関する相談が月齢3-5か月、6-8か月、9-11か月に多かった。離乳開始から完了までの期間は長く、その間子どもの様子を見ながら離乳食の形状と食事回数を変化させていかねばならない。このため「与え方・進め方」に関する相談は特定の月齢に限らず相談が多いと考えられる。

「与え方・進め方」に関する相談以外で多いものは月齢6-8か月では「アレルギー・疾患・体調」、月齢9-11か月では「食欲」であった。月齢6-8か月は離乳開始後間もない頃から離乳を進めていく初期の段階であり、母親が子どもの反応を見ながら色々な食品を子どもに与える時期である。濱崎ら⁶⁾の調査あるように食物アレルギーについての情報が増えた現在、どのような食品を選んだら良いかという心配は残ると思われるため相談が多い可能性がある。我々は一番相談の多かった「与え方・進め方」に応えることはもちろん、月齢で相談が増える特徴的な相談を熟知し相談に応えていくことが必要である。

年度別離乳相談内容では、「離乳の開始時期」と「果汁の開始時期と飲み方」は3年間全体で相談数に変化が見られた。「離乳の開始時期」の相談については、2006年度には相談がなかったのが2007年、2008年と相談数が増加している。「果汁の開始時期と飲み方」については「離乳の開始時期」の相談とは逆に、相談数が減少し、2008年には相談がなくなった。離乳相談に占める「離乳の開始時期」、「果汁」割合は共に5.9%と低い。「離乳の開始時期」については悩みを持つ母親が少数ながら出現し、「果汁の開始時期と飲み方」については悩みを持つ母親がいなくなったことを示す。「離乳の開始時期」の相談内容は時期を単に確認するものであったので、離乳への関心の表れと思われる。また「離乳の開始時期」は、授乳や食事について不安が高くなる時期⁷⁾と言われていた。離乳の開始を前に不安が高まっている可能性がある。「果汁の開始時期と飲み方」に関する相談がなくなったことは、これまで行われていたことが不要であるという情報は伝わりやすいからだと思われる。表1に示すように「授乳・離乳支援ガイド」発表により「離乳の開始時

期」についてはやや遅くなり、「果汁」については不必要になった。背景には「授乳・離乳支援ガイド」の変更が少なからず影響している可能性が考えられる。

「与え方・進め方」の相談は多い。2007年度にやや減少するものの3年間全体で相談数に大きな変化は見られなかった。「子どもの食欲」「アレルギー・疾患・体調」についての相談も多いが、年度によって増減する理由ははっきりしない。しかし相談数の多い「与え方・進め方」「子どもの食欲」「アレルギー・疾患・体調」等は「授乳・離乳支援ガイド」の変更に関係なく、多くの母親が悩む内容だと考えられる。

本調査の対象は、自主的に相談に来る母親であった。離乳を始める前に知識の確認をするために相談に来た、離乳を行ってみて困難なことにぶつかり相談に来た母親であった。このような母親が気軽に相談出来る場は今後も必要である。引き続き母親を支援していきたい。

Ⅶ. 研究の限界

本研究は対象者の背景の詳細がわからないこと、その数が少ないことから流通店舗内での離乳相談の大まかな現状しかわからない。

Ⅷ. 結論

我々が行っている流通店舗での育児相談の中から離乳に関する育児相談に焦点をあて現状調査を行った。

1. 離乳相談の相談者はすべて母親であった。
2. 月齢2か月から17か月までの相談があり、6-8か月の相談が最多であった。
3. 相談内容については「与え方・進め方」に関する相談が最多であった。

4. 「離乳の開始時期」「果汁の開始時期と飲み方」の相談数に変化が見られ、「授乳・離乳支援ガイド」の変更の影響を受けている可能性が示唆された。

謝辞

本研究に協力くださいました相談者の皆様、A店舗関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

文献

- 1) 財団法人 母子衛生研究会：授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き、母子健康事業団、東京、2008. 第1版第1刷：2.
- 2) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課：授乳・離乳の支援ガイド、2006
- 3) 厚生労働省雇用・児童家庭局母子保健課：平成17年度乳幼児栄養調査、2005
- 4) 石崎優子, 梶原祥子, 河野祐子：都市部の育児相談を利用する母親の相談内容と健康意識. 小児保健研究58 (6), 726-730, 1999
- 5) 板倉祐子, 大土井望, 小池麻希子, 梅地智恵, 野村佳代, 樋口まち子：O市における育児不安に関する検討. 岡山大学医学部保健学科紀要, 13: 99-107, 2003.
- 6) 浜崎優子, 平田和子, 寺本恵光, 松田光枝：3-4か月児を持つ母親の乳児健診における主訴の分析. 保健師ジャーナル, 66 (01), 44-52, 2010
- 7) 松野郷有実子, 島田美帆, 水井真知子, 後藤良一, 武井明, 鈴木直己：旭川市保健所における乳幼児健康相談の現状とその役割. 保健師ジャーナル, 60(5) 466-471, 2004

A report on the consultations regarding weaning at a shopping mall

Naoko YAMAMOTO¹, Emi AKAHOSHI², Tetsuko SHINKAWA³, Kazuyo OISHI¹

- 1 Department of Nursing, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences
- 2 Nagasaki University Hospital
- 3 Department of Radiation Epidemiology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

Received 3 April 2011

Accepted 6 July 2011

Abstract Consultations focusing on weaning have been conducted at a shopping mall over the last three years. The number of babies observed was 130 and the number of questions addressed was 152. All the people who came for consultations regarding weaning were mothers. Their babies' ages ranged from two months to seventeen months. Of the advice sought, 31.6% was about how to give babies food. This was the most commonly asked question. Of mothers seeking consultation, 38.5% had six to eight month old babies. This was the largest age group. Over the three years, the number of questions regarding juice (when to start drinking juice and how to get babies to drink it) declined. Questions regarding when to start weaning increased over this time. One of the reasons could be the change in the "Guidelines for Nursing and Weaning" by the Ministry of Health, Labour and Welfare.

Health Science Research 23(2): 23-28, 2011

Key Words : weaning, begin weaning, completion of weaning